

第5回 第四次稲城市教育振興基本計画策定委員会 議事要旨

日 時 令和6年12月13日（金）午後7時～8時10分
場 所 稲城市役所6階 601・602 会議室
出席者 （委員長）藤城委員
（副委員長）加藤委員
（委員）恵方谷委員、前田委員、由岡委員、渡邊委員、山口委員、狩野委員、
遠藤委員、戸延委員、杉本委員、岡野委員、佐藤委員、岸委員
（事務局）涌田教育総務課長、古川教育総務係長、加藤主事
コンサルタント1名
傍聴者 1名

会議の概要

1 事務局説明

（1）意見公募報告

事務局より、資料1に基づき説明があった。（質疑、意見なし）

（2）「第四次稲城市教育振興基本計画」各論案の構成

事務局より、資料2に基づき説明があった。（質疑、意見なし）

2 協議事項

（1）「第四次稲城市教育振興基本計画」総論案及び各論案の検討

事務局より、資料3に基づき説明があった。

〔質疑応答〕

委員 50ページの「1-1-(1)-⑧ 生涯学習宅配便講座」についてお聞きしたい。ここは「家庭教育への支援」のところなので、「子育てに関する」ということをわざわざ入れたのかもしれないが、生涯学習は子育てに限らずもっと広い範囲だと思う。これは「生涯学習宅配便講座」という名前が先にあって、それに今回たまたま「子育てに関する」ということを付け加えたものなのか、もしくは逆なのか。生涯学習が子育てに限定されるのはすぐわないと思った。

事務局 この計画は、前回までの会議でもご案内している通り、かなり広いジャンルでの計画になっている。その中で各課の事業を当て込んでいくと、いろんなところに出て、また再掲という形で登場するような作りになっている。この「生涯学習宅配便講座」も、50ページに記載があるのと、96ページの生涯学習分野でも再掲の形で記載している。2つのジャンルにまたがるような場合は両方に記載することになっている。

委員 69ページの「2-2-(2)-⑤ 音楽鑑賞教室」について、令和7年度からとなると、

「市内の全小中学校」で「中」は取れるのか。

事務局 「中」はやらないのか。

委員 そのように聞いているが、いかがか。

事務局 指導課に確認して、必要に応じて修正させていただく。

委員 「てにをは」の細かいことだが、例えば、45 ページの計画の体系の一番上に「家庭の教育力の向上支援」とあるが、そうした言葉の最後を「向上支援」、「連携推進」とかくつついて表記しているのがあちこちに出てくるが、ぱっと読んだときに、ちょっと違和感があった。それで意味が取れると言えば取れるのだが、「向上への支援」、「連携の推進」とかでなくていいのかと思った。

事務局 この表現については、市長も入る総合教育会議でかなり揉んだ文言の部分である。その中で、「向上支援」でよかろうということで最終的には落ち着いた。この施策の方向性の部分については、今からの修正は難しいが、各論の中で気になる部分があれば、ご指摘いただければ修正検討等々させていただきたいと思う。

委員 48 ページの「測定指標及び目標」の下言葉について。どの言葉にも「答えた割合の向上」とあるが、ここの捉え方は、右側の現状の数値に対して、これから上がってほしいというように捉えればよいのか。

事務局 その通りです。

委員 そこが、皆さんがさっと見て周知できるものかどうか、ちょっと心配になった。

事務局 確かに現状の数値しか載せていないという部分が。

委員 だから、ここからこちに引っ張っていくというのがわかるのかなと。

事務局 そこは記載ぶりを少し検討したいと思う。

副委員長 事務局の説明では、それぞれの取組・事業例は、個別の事業実施計画の細かいものではないということだった。この計画がスタートしたら、各課が柔軟に対応できる、そういう意図を入れているということなので、例えば、「1-1-(1)-① 地域教育懇談会」では、概要に2行しか書いていないが、この取り組み方については、今後、柔軟に変えていくという意識でよろしいか。

事務局 その通りである。

副委員長 第三次計画では、学校現場で「このように変えたい」という話になったときに、「もう第三次計画に書いてあるので、変えるとしたら令和7年度から」と言われたことがあった。今回の計画では、必要があれば変えていくということでもよろしいか。

事務局 その通りである。

委員 「ヤングケアラー」という言葉について、47 ページに「児童虐待やヤングケアラーの問題等が深刻化しており」と出ているが、その後、ヤングケアラーのことは出ていなかったと思う。文言として載せないのか。

事務局 ヤングケアラーの対応では、1つの事業をフォーカスして、これをやればヤングケアラーの課題が解決されるというような考え方ではなく、いろいろな学校現場で悩んでいる子どもを発見して、しかるべき機関に繋げるなどの対応を行っている。そのため、計画の中では、ヤングケアラーの問題はリード文に記載して、各取組で

解決を図っていくというような考え方で記載については考えている。

委 員 先ほどから話が出ている項目名のレベル感というかその辺りのことは、ここに出ている委員の意見を受けて、また庁内の委員会で整理していくという考え方でよいのか。

事務局 この策定委員会ののち、関係各課に個別ないし一斉の調査等々をするので、その中で整理させていただくことになる。

委 員 55 ページのリード文で、最後の 3 行の意味がわからないので、どういう意図で書かれたのかを教えてください。「市民の関心が低下していることから、今後は地域とともにある学校、家庭・学校・地域・関係機関や団体等」のところで、学校という単語が 2 つ出てきているが、これは、最初のほうが、「今後は地域とともにある学校であるために、家庭・学校・地域・関係機関や団体等の地域の多様な主体が連携・協力し、・・・します」という意味か。

事務局 その通りである。こちらの文章がふさわしくなかった。

委 員 そうであれば、「学校であるために」などの文言を入れたほうがいいと思う。

委 員 53 ページの(1-2-(1)-②の概要で)「スタートカリキュラム」の注釈だけ※印がないので、付けたほうがよいと思う。

あと、各施策の方向のページに付けられる SDG s のアイコンが結構重複しそうだったと思った。それぞれのページに付けてもいいし、1 か所にまとめてでもいいのではないかと思った。

事務局 第三次計画では、SDG s のどの目標に該当するかというような一覧表も資料編に載せていた。今回、各論を組み替えたので、その組み替えた内容によって当てはまる SDG s の目標が変わってくるので、今は載せていないが、またあとから載せようというのは案としては思っている。

委 員 今、聞いていて、一覧のほうが見やすいと思った。

ちなみに、この冊子は、今後、製本されるのか。

事務局 第三次計画の頃から印刷は庁内でしており、業者に製本を頼むことは考えていない。公表するのはデータとなる。

委 員 よくネットに上がっている PDF のデータは、すごくページ数が多いので大変。(当該ページに) ポンと行ける何かがあればいいと思った。

事務局 実は、皆様にメール送付したデータも、Word の目次機能を使って飛べるようにはしてある。ただ、これだけ大量の情報になるので、公開するときに、少しわかりやすい形でお示しができればとは思っている。

委 員 再掲という項目が結構あるので、それがどこに載っているのか、ぱっとわかるといい。それが載っているところに飛んでいけたりすると、わかりやすくなると思う。

事務局 各論の作成時点ではどの項目がどこに行くか不透明な部分もあったので、最終的に再掲のリンク関係を整理して、やれるかどうか検討する。

委 員 私は、全然コンピューターに詳しくないので、そういうのができるのかわからないが、再掲でいくつかあるのであれば、例えば、全部の取組名に連番を書いて、地教

懇がどこどこに載っているのかというのが、何番と何番だとわかるだけでも全然違うかなと思っている。

委 員 2点質問がある。1点目は、重複している事業は、事業内容は同じものなのか。施策の方向性に対して事業を展開していくと思うが、2つの方向に向かっていくのか。例えば、「GIGAスクール構想の推進」は、「質の高い教育環境の整備」と「確かな学力の育成」で重複しているが、やる事業は、向かっている方向性が同じなのか、それとも、全く180度違う方向に向かって事業を進めていくのか。どういうイメージで事業を捉えていけばいいのか。

事務局 例えば、GIGAスクールであれば、ねらいとしては、当然、2つある。児童・生徒の教育の環境整備、実際に授業でICTを使った授業ができるとかそういったところもある。あとは、情報という側面もある。同じ事業でも、見方によって当てはまるものがあるので、教育環境の整備と情報の活用のところで再掲にさせていただくということになる。委員のお話の中では、後者の部分に当てはまる考え方と思う。

委 員 もう1点が、新設された「教育委員会広報紙「イエール」による情報発信」について。市の広報紙や生涯学習課が出している「ひろば」とあえて分離させて、今回、この「イエール」が新たに発行されていると思うが、なぜ、教育委員会がやっている活動をあえて分けて発信しているのか。

事務局 生涯学習日より「ひろば」は、あくまでも市民団体で実施する生涯学習に関するイベントの情報提供などが主。逆に言うと、教育委員会での取組を紹介するのが市の広報紙。市の事業として紹介するのが市の広報紙しかないので、市の広報を使って紹介していた。

今まで教育委員会の取組や学校の取組の紹介をするものがなかったもので、この4月に新たに作ろうということで始めた事業である。教育委員会の教育施策、教育行政について発信させていただく広報紙「イエール」を作らせていただいたので、改めて計画に載せて広報させていただこうということで載せたものである。

委 員 もう1点よろしいか。「家庭教育への支援」で、(50ページの)「1-1-(1)-⑤ 情報の提供」について。たぶん家庭教育に対する情報発信のため、「イエール」とかと分離するためにあえて作っているのかなと思うが、ある意味、情報発信というのは当たり前だと思う。あえてここに「情報の提供」と入れている理由は何か。

事務局 これは、「家庭教育への支援」というジャンルで紹介しているところ。実際の細かい中身としては、例えば子育て世代であるとか、乳幼児の健診のお知らせや予防接種関連などの母子関係の情報を提供することを主眼で記載している。「メール配信サービス、SNS等」と書いてあるが、加えて、稲城の子育てアプリなどもこの中に含まれる。その中で、例えば「健診をこういうふうに受けてください」などの周知も福祉のほうからやっているの、そうした取組をこちらのほうに含めさせていただいているという考え方になっている。

委 員 94ページ以降の右上にある「施策の柱」が、全ページ「Ⅱ」になっている。

事務局 申し訳ない。修正させていただく。

3 その他

(1) 今後の流れについて

12 月中に各関係機関（小中学校、認定こども園、幼稚園、保育所、学童クラブ）に対する意見聴取を実施。併せて、新しい取組として、児童生徒に対する意見聴取をタブレット端末により実施。

令和 7 年に入り、1 月 21 日に総合教育会議・教育委員会報告、1 月 31 日に市議会福祉文教委員会報告、2 月から 3 月辺りに庁内策定委員会、策定委員会を開催、3 月に計画決定。

〔質疑応答〕

委 員 小・中学生への意見聴取は、データが来たら、自由にやってもらうようなアンケートなのか。

事務局 そういった雰囲気になる。

委 員 特別支援の子どもにもやるのか。

事務局 同様に考えている。

委 員 小・中学生への意見聴取はイメージが湧かないのだが、どのように行うのか。先生から説明があって、その案内が発信されるのか、それとも、案内が急に送られてくるのか。

事務局 やり方の詳細については、まだあまり詰められていないが、お答えいただく小・中学生に唐突感がないようにしたい。また、学校の先生方に負担をかけないようにしたい。そのため、例えば、配布する際には、教育委員会からのお願い、あと、保護者の方向けに協力をお願いをするものを付けた上で周知していきたいと考えている。

委 員 今日の議事のところで、私はいろいろと各論について話そうと思って用意してきたのだが、最初、施策の柱Ⅰのところを詳しくされていて、Ⅱ・Ⅲに進んでいくのだろうと思っていたら、あっという間に「3 その他」に行ってしまったので、話す機会がなかった。スポーツ行政に関することなので、あまり全員に話すまでもないかと思い、個別に私の意見を後日、市役所にお伝えしに行こうと思うが、それでよろしいか。

事務局 承知した。

(2) 委員報償費について

委員報償費の振り込み時期は、来年 1 月中旬頃の予定。

(3) 第 4 回策定委員会議事要旨について

今後、資料 4 の議事要旨を市のホームページで公開する。

〔質疑応答〕

委 員 市役所として、議事録作成マニュアルのようなものはあるのか。

事務局 特に指定された記載方法はない。会議によって形式は異なる。

(4) 次回の策定委員会について

次回の策定委員会の開催日についてはメールで案内する。

以上